J I A

平成１５年１月６日

慶應義塾
塾長　　安　西　祐一郎　　様

社団法人　日本建築家協会（JIA）
関東甲信越支部　支部長　松原　忠彦
保存問題委員会　委員長　水西　敏正

慶應義塾大学萬来舎（第二研究室）の保存についての要望書

拝啓　時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。
貴塾におかれましては、我が国の繁栄と文化の高揚に大きく貢献されて崇敬の念に耐えません。また、日頃当協会の活動に格別のご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げる次第です。
私ども日本建築家協会では、優れた建築物を長く使い続けることによってこそ、文化と歴史が継承されさらなる新しい発展が実現されると考え、当委員会を中心に活動を重ねております。
この度、慶應義塾大学では現在萬来舎（第二研究室）のある位置に新築校舎を計画していると伺いました。
貴塾発展のために、高密度化した三田の敷地内の有効利用を考えられ、熟慮の末、当該敷地を候補地とされ、競技設計により建て替えの案を選択される慎重な手続きには敬意を表するものであります。
しかしながら、ご高承のとおり、「萬来舎（第二研究室）」は、文化勲章を受章した建築家谷口吉郎と、国際的活躍で知られる彫刻家　イサムノグチの創作協力によってつくられた作品です。谷口吉郎は「演説館」（明治７年、１８７４）にこもる意匠のモラルを、各校舎が新しく受けつぐことによって、「福澤精神」のルネッサンスを表現したいと、一方、イサムノグチは、慶應義塾の学生だけでなく、日本の全ての学生諸君がそこに来て聖域を見出して呉れるようにと望んで、これを残すといっております。
現在、我が国の都市部において、経済的な事情など様々な理由で、近代の貴重な建築遺産が次々と失われております。失われた建物に刻まれた時間の重みは二度と取り返すことができません。古いものと新しいものとの共存が今日ほど求められている時代はないと思われます。
私どもと致しましては、建築家谷口吉郎と彫刻家イサムノグチの類希なるコラボレーションの賜である萬来舎に宿るその精神性と空間のその研ぎ澄まされた繊細な魅力を後世に十分伝えられるようにさらなるご検討に英知を傾けて頂きたいと願ってやまない次第でございます。
尚、私どもと致しましてもこれまでに培った知識と経験に基づき、その魅力を存分に残し活かすために可能な限りの協力をさせて頂く用意のあることを申し添えます。

敬具

社団法人 日本建築家協会
The Japan Institute of Architects
関東・甲信越支部
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前2-31-10 JIA館
Tel.03 3406 6291　Fax.03 3406 6294